

グアム日本人学校の特色

前グアム日本人学校 教諭

千葉県船橋市立峰台小学校 教諭 浅野 英樹

キーワード：在外教育施設, グアム, 英語教育

1. はじめに

平成20年度から3年間、在外教育施設グアム日本人学校で勤務する機会をいただいた。日本人学校で勤務し、海外に住んでいる日本の子どもたちと接することは、以前からの私の目標の一つであった。派遣中は、本当に多くの貴重な経験をさせていただいた。ここに、私が勤務したグアム日本人学校の特色を紹介する。

2. グアムの概要

グアムは、太平洋に浮かぶマリアナ諸島最大の島で、アメリカ合衆国の準州である。大きさは、日本の淡路島とほぼ同じである。州都はアガニヤ。海洋性熱帯気候に属しており、年間を通して高温多湿である。いわゆる「常夏」の島で、1年中海水浴が楽しめる。6～12月が雨季、1～5月が乾季であり、雨季にはスコールが降る。公用語は英語であるが、先住民のチャモロ人の間では、チャモロ語も使われる。アメリカ人、チャモロ人のほか、日本人、韓国人、中国人、フィリピン人、台湾人など、多種多様な民族が住んでいる。観光産業がさかんで、近年は日本人観光客のほか、韓国や台湾からの観光客が増加している。太平洋戦争中には、約3年間日本軍が占領しており、今でも島のあちこちに戦争の爪痕が残っている。

3. グアム日本人学校の概要

グアム日本人学校は、グアムに住む在留邦人の総意により設立された私立学校であり、グアム日本人会が母体となって運営を行っている。今年度で、創立22年目になる。校舎は、グアムの中心タモン地区から車で20分ほど東に行ったマンガラオという地区にある。マンガラオ地区は、グアム大学やジョージ・ワシントン高校もある文教地区である。学校の周りは自然が多く残っており、時には野生のイグアナやイノシシも見ることができる。グアム日本人学校は、幼稚園・小学部・中学部で構成されている。平成23年度4月現在の幼児児童生徒数は、幼稚園17名・小学部48名・中学部22名の計87名である。児童生徒の約5割は企業駐在員（航空関係・観光関係など）の子息で、残りの5割は永住者の子息である。ハーフやクォーターの子の割合が高く、中には両親ともに日本人ではなく、日本国籍を持っていない児童生徒も在籍している。教職員数は、校長1名・教諭8名（以上、派遣教員）、現地講師3名・英語講師4名・事務員3名である。



<校舎全景>

4. グアム日本人学校の特色

(1) 英語教育と国際理解 ～週3時間の英会話、現地校との交流～

グアム日本人学校は、英語圏に位置する日本人学校ということで、英語教育を特に力を入れている。英会話の授業は、小学部・中学部ともに週3時間ずつあり、現地採用のネイティブの講師陣が指導を行っている。英語のクラスは、子どもたちのレベル別に4つまたは5つに分けられているので、一人一人のレベルに応じたきめ細やかな指導が可能である。こうして、転入当初は英語が話せなかった児童も、めきめきと英語力が向上していく。

また、国際理解教育として、現地校との交流もさかんである。小学部・中学部ともに、現地校に見学に行き、現地校のカリキュラムに則した生活を行う。また、逆に現地校の児童生徒が日本人学校を訪問する日もあり、日本人学校のカリキュラムに則した生活を行う。この両日は、普段習っている英語を生かすよいチャンスであり、子どもたちは現地校の児童生徒と進んでコミュニケーションを図ろうとしている。



<現地校の児童に折り紙を教えている様子>

(2) 地域に開かれた学校 ～運動会, 学習発表会～

グアムは狭い島であり、日本人の数も少ないため、人々はお互いに支え合い、協力して生活をしている。グアム日本人学校も、グアムに住んでいる様々な人々の支援・協力のもとで成り立っている。春の運動会と秋の学習発表会は、そういった支援・協力をしてくださっている地域の人に、グアム日本人学校の雰囲気や子どもたちの活躍を示す二大行事となっている。運動会は、幼稚部・小学部・中学部が合同で行う。中学部がリーダーとなり、準備・練習を重ね、本番に臨む。地域参加のプログラムも多数あり、ほのぼのとした運動会である。学習発表会は、ホテルのステージを借りて、それぞれの学団（幼稚部、1・2年、3・4年、5・6年、中学部）が劇を行う。本番には、地域の人をはじめ、お世話になっている方を多数招待する。かわいらしい幼稚部の演技から、迫力ある中学部の演技まで、どれも見応えがあり、毎年好評を得ている。また、グアム日本人学校は基本的に毎日がオープンスクールであり、いつでも、どの授業でも、保護者や地域の人々の参観が可能である。



<学習発表会。1・2年の劇の様子>

(3) 工夫して実施している授業 ～設備面の不足の解消～

グアム日本人学校は、グアムという常夏の島にありながら、体育館とプールがない。また、理科室と家庭科室も兼用である。このように、設備面が不足している現状であったが、教職員全員で知恵を出し合い、できる限りの授業を行ってきた。体育館は、プレイルームという部屋（日本の教室よりも狭い）で代用し、場を工夫することで対応した。プールは、観光ホテルにお願いをして年間6日間だけ借用し、その6日間を水泳特訓期間（「水泳学習」）と位置づけることで対応した。家庭科室と理科室は、授業との割り振りを考慮することで対応した。設備面の不足を言い訳にせず、教職員で知恵を出し合い、工夫して授業を実施しているのがグアム日本人学校のよさの一つである（体育館は、グアム日本人会により「体育館建設プロジェクト」が進んでおり、近い将来での建設を目指している）。



<プレイルームでの跳び箱の様子>

5. 終わりに

3年間の派遣を終えて、グアム日本人会の皆様をはじめ、在留邦人の方々の海外子女教育に対する熱心さや苦勞をひしひしと感じた。そして、海外子女教育に携わる者として、責任の重さを痛感した。この3年間の経験を生かし、今後もさらに研修、研鑽に努め、自分自身を磨き、職務を全うするよう全力を尽くしていきたい。